様　式　Ｆ－７－１

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）(平成２８年度)

1．機関番号　3 2 6 0 4

2．研究機関名　大妻女子大学

3．研究種目名　若手研究(B)

4．補助事業期間　平成２７年度～平成２９年度

5．課題番号　1 5 K 1 6 9 0 4

6．研究課題名　民族誌的アプローチにもとづく難民の定住プロセスの国際比較研究

7．研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
1 0 7 2 3 8 2 7	クボ　タダユキ 久保　忠行	比較文化学部	講師

8．研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9．研究実績の概要

難民の定住プロセスの国際比較をおこなうにあたり、本年度はフィンランドとオーストラリアで現地調査を行った。両地域ともに、タイにあるビルマ難民キャンプから第三国定住制度をとおして再定住した難民（カレンニー難民）を主たる対象として、参与観察と聞き取りにもとづく調査を実施した。

フィンランドでは定住後10年程度が経過しており、オーストラリアでは、4～7年程度が経過していた。現地調査をとおして、①国家における難民の位置づけ、②難民に対する支援状況、③難民の生活実態、④近隣住民との関係性、⑤難民間の国境をこえたつながりなど、定住プロセスを比較するための基礎情報を把握することができた。日本国内の状況については、神戸のベトナム難民2世への聞き取り調査などをおこなった。

フィンランドは、福祉国家として知られているように日本とは特徴が異なる国家とみなされがちだが、民族的な均質性、人口あたりの外国人の割合、急速な高齢化、事実上の労働力としての外国人の位置づけといった点で、日本と類似性があり比較の対象となる。またオーストラリアは、理念としての多文化主義と実情という点で、日本の多文化共生と比較して考察することができる。

今年度の研究成果の一部は、第26回日本移民学会年次大会シンポジウム「移民と難民：いま移民研究に何ができるのか」で報告し、報告原稿を学会誌『移民研究年報』に寄稿した。また次年度には、著書の分担執筆者として寄稿した2本の論文、単文とコラムが刊行される予定である。

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

10. キーワード

(1) 難民	(2) 移民	(3) 人の移動	(4) 支援
(5) 国家と難民	(6) 共生	(7)	(8)

11. 現在までの進捗状況

（区分）（2）おおむね順調に進展している。

（理由）
予定どおり2カ国で現地調査を実施し、調査データを収集することができた。次年度には、補足調査をおこない論文としてまとめることができる見込みである。

12. 今後の研究の推進方策　等

（今後の推進方策）
最終年度となるのでフォローアップ調査を実施するとともに、研究成果を論文にまとめる。

（次年度使用額が生じた理由と使用計画）
（理由）
フィンランドの調査では、インフォーマントの自宅に宿泊したため宿泊料がかからなかったため、残金が生じた。

（使用計画）
現地調査の過程で、確認する必要がある論文と文献があるので、その購入費用に充てる。

（課題番号： 15K16904 ）

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

13.研究発表（平成２８年度の研究成果）

〔雑誌論文〕　計（５）件／うち査読付論文　計（１）件／うち国際共著　計（０）件／うちオープンアクセス　計（０）件

著　者　名	論　文　標　題　【掲載確定】
久保忠行	難民研究へのアプローチ ―人類学の視点から―

雑　誌　名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
移民研究年報	有	23	2017	印刷中	―

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし
オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

著　者　名	論　文　標　題
久保忠行	「ことばの重要性:ベトナム料理店を経営する女性の経験から」

雑　誌　名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
『ベトナム難民一世・二世たちの震災の記憶 阪神・淡路大震災から20 年を迎えて』	無	1	2016	14-16	―

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし
オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

著　者　名	論　文　標　題
久保忠行	「小学生だった頃の震災経験:ベトナム難民二世として生きること」

雑　誌　名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
『ベトナム難民一世・二世たちの震災の記憶 阪神・淡路大震災から20 年を迎えて』	無	1	2016	29－31	―

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし
オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

著　者　名	論　　文　　標　　題
久保忠行	「外部有識者／地域専門家による所感」

雑　　誌　　名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
『ジャパン・プラットフォーム（JPF）　ミャンマー少数民族帰還民支援プログラム 終了時評価調査報告書』	無	1	2016	70-72	－

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし

オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

著　者　名	論　　文　　標　　題
Tadayuki Kubo	Book Review： Beyond Borders: Stories of Yunnanese Chinese Migrants of Burma. By Wen-Chin Chang. Ithaca: Cornell University Press, 2014. Pp. 296.

雑　　誌　　名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
The International Journal of Asian Studies	無	13（2）	2016	263－265	－

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
https://doi.org/10.1017/S1479591416000103

オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

〔学会発表〕　計（２）件／うち招待講演　計（２）件／うち国際学会　計（０）件

発　表　者　名	発　　表　　標　　題
久保忠行	難民の人類学－ビルマ難民の生活世界と難民経験

学　会　等　名	発表年月日	発　表　場　所
第26回日本移民学会年次大会シンポジウム、移民と難民：いま移民研究に何ができるのか（招待講演）	2016年06月25日～2016年06月26日	阪南大学

（課題番号： 15K16904 ）

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

発　表　者　名	発　　表　　標　　題	
久保忠行	難民受け入れの経験は日本社会に何をもたらしたのか	
学　会　等　名	発表年月日	発　表　場　所
ベトナム夢KOBE設立15周年シンポジウム 「ベトナム難民の経験の記録と継承」（招待講演）	2017年03月11日～2017年03月11日	新長田勤労市民センター別館ピフレホール

〔図書〕　計（０）件

著　者　名	出　版　社	
書　　名	発行年	総ページ数

14.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕　計（０）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕　計（０）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計（０）件

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

16.本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

（１）国際共同研究：－

17.備考

個人ウェブサイト
https://sites.google.com/site/kubotadayuki/